

筆記具市場における競争地位別の知財戦略を探る： 一般情報と特許情報を融合させて説得力が高く、技術的に深い分析に チャレンジする

○佐藤貢司¹⁾, 大内力²⁾, 大久保武利³⁾, 杉原彰子⁴⁾, 中西朋宏⁵⁾
 帝人株式会社¹⁾, 積水化学工業株式会社²⁾, キヤノン株式会社³⁾, 日本化薬株式会
 社⁴⁾, 新日鉄住金化学株式会社⁵⁾

〒100-8585 東京都千代田区霞が関 3-2-1 霞が関コモンゲート西館

Tel: 03-3506-4057 FAX: 03-3506-4477

E-mail: ko.satou@teijin.co.jp

Study of IP strategy of each company in market position in ballpoint pen market: Challenge to advanced analysis of IP information in combination with marketing information.

SATO Koji¹⁾, OUCHI Tsutomu²⁾, OKUBO Taketoshi³⁾, SUGIHARA Akiko⁴⁾, NAKANISHI
 Tomohiro⁵⁾

TEIJIN LIMITED¹⁾, SEKISUI CHEMICAL CO., LTD²⁾, Canon Inc.³⁾, Nippon Kayaku
 Co., Ltd⁴⁾, NIPPON STEEL & SUMIKIN CHEMICAL CO., LTD⁵⁾

2-1, Kasumigaseki 3-Chome, Chiyoda-Ku, Tokyo 100-8585 Japan

Phone: +81-3-3506-4057 Fax: +81-3-3506-4477

E-mail: ko.satou@teijin.co.jp

【発表概要】

企業の知財戦略を理解するうえで、その企業の経営環境等と関連付けが有用である。本研究では、分析対象として近年話題となっているボールペン市場を取り上げ、特許情報と一般情報との融合によるより深い分析を試みた。一般情報として売上や営業利益および商品の人気投票などから分析対象 4 社を抽出し、その市場地位および事業戦略と知財戦略についての仮説を設定した。特許情報からは、インキ種類と機能の観点から分析を行い、各社技術の特徴や開発体制などを明らかにし、仮説の検証を行った。加えて、パテントスコアを指標として各社保有特許群を特許資産規模、資産価値の点から分析し特許ポートフォリオ構築の状況について考察を行った。

【キーワード】

知財戦略, 市場地位, 特許価値, PAT-LIST 研究会

1. はじめに

企業では外部・内部の経営環境に応じて、R&D、知財、マーケティング、物流、生産、販売等の戦略が決定される。従って、企業の知財戦略は、その企業の経営戦略と密接に関連し、その企業の知財戦略を理解するためには、その企業がおかれた経営環境も理解する必要がある。経営環境の分析には主に、経営指標等の一般情報、技術動向分析では主に「特許情報」が用いられているが、これらの情報を結びつけて考察することで経営戦略から見た知財戦略の考察を行うことができると考えられる。

2. 一般情報分析

本研究では、近年特徴ある商品が開発され注目度の高い「ボールペン」市場を分析の対象に¹⁾、一般情報として、市場環境²⁾、各経営指標³⁾、商品情報⁴⁾、などからボールペン市場を取り巻く環境や主たるメーカーの経営環境を把握した。

近年の輸入低価格品の増加やカタログ通販・ネット通販等の拡大によりボールペン市場は非常に厳しい状況にある一方、技術革新による従来にない高機能なボールペンが登場し、近年の文房具人気を支えていることが推定される。

これらの情報より、市場における競争地位とその経営戦略および知財戦略仮説を設定した(図1)。

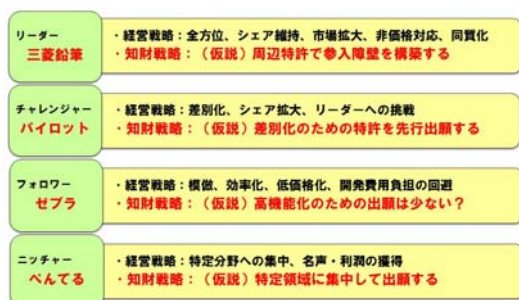


図1 競争地位と知財戦略の仮説

3. 特許情報分析

特許情報のマクロ分析から、ボールペン技術ではインキ、ペン先の構造等多くの開発が行われていることが概観される。本研究では、近年注目を集めている商品の調査結果⁴⁾や各社のホームページ等の情報から、三菱鉛筆での「油性で滑らかな書き味」、パイロットでの「消せるインキ」といったインキに特徴のある技術開発に注目した。

特許情報の分析として、各公報にインキの種類、機能といった技術的な分析観点(分析軸)を付与した上で各社ごとの特徴を把握することとした。分析ツールには、(株)レイテックが提供している分析ツール「PAT-LIST」⁵⁾を主に用いた。

各分析軸を用いた特許マップから、三菱鉛筆の「油性で滑らか」においては、添加剤に特徴があること(図2)、パイロットの「消せるインキ」は、マイクロカプセル化技術が重要であること(図3)などが推定された。

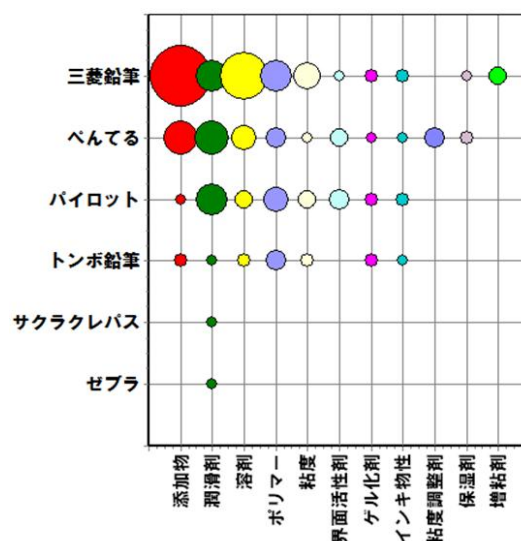


図2 油性における技術の特徴

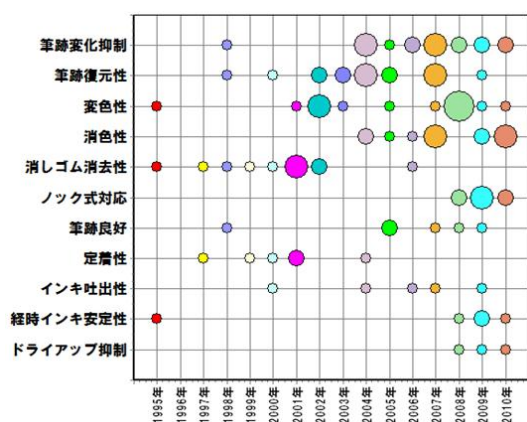


図3 パイロット出願状況(消える)

また、発明者分析をおこない主発明者やそれぞれの技術開発に対する開発体制を確認した。三菱鉛筆では、インキ分野以外に所属していた開発者が単独で開発・出願を進めていた状況が確認された。また、パイロットにおいては、2002年頃より開発チームが構成され、従来の消しゴムによる消去から現技術である摩擦熱による消去への転換および本格的な開発・出願がなされていることが確認された。

これら特許情報分析から推定された重要技術および開発体制内容は、開発者のコメント等^{6),7)}ともよく合致したものであり信頼度の高い分析結果であることも確認されている。

以上の分析結果から、ボールペンインキに関して、三菱鉛筆は全てのインキ種類の開発をカバーしつつ、従来からの油性インキにおける大きな課題の解決(なめらか)に取り組むことで市場の拡大やシェア維持を図っていることが伺えた。また、パイロットでは「消せるインキ」の開発に重点化されており、差別化によるシェア拡大といった意図が確認された。三菱鉛筆、パイロットに関しては、設定し

た知財戦略の仮説(図1)の検証ができたと考える。

続けて、本研究では各社の保有特許を特許資産とみなし、その資産規模および資産価値の変動を分析することで、各社特許ポートフォリオ変化の分析を試みた。

特許資産の規模および資産価値の指標として、(株)パテント・リザルト社が提供する「Biz Cruncher」⁸⁾を用い、各社ごとのインキ種類別の権利者スコア(資産規模の指標)および平均スコア(資産価値の指標)を比較することで特許ポートフォリオの検証を試みた(図4、図5)。

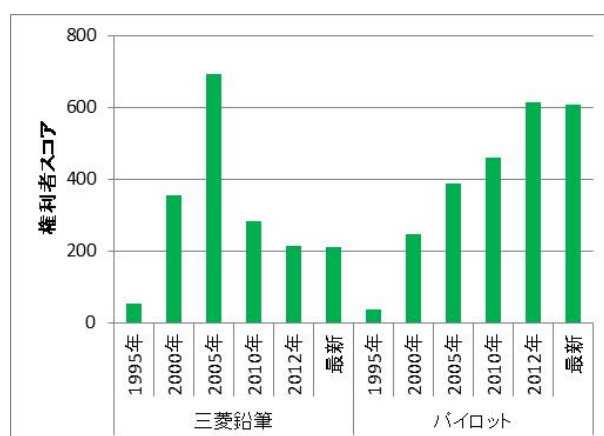


図4 権利者スコアの推移

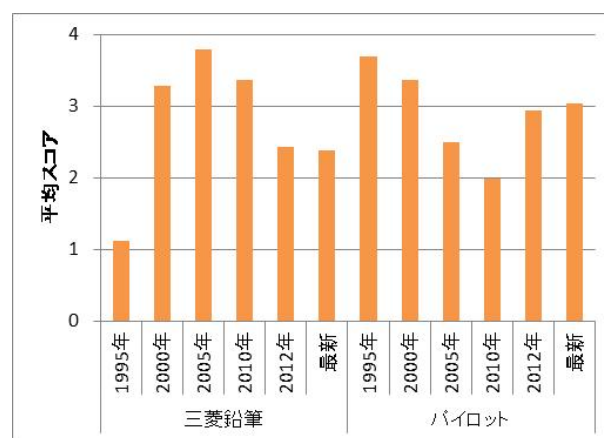


図5 平均スコアの推移

三菱鉛筆においては、出願件数の減少傾向からも推定される全体的な資産規模の縮小が図られていること、パイロットにおいては、「消せるインキ」の価値が高くなっていることなど、各社の状況が反映された結果となっており、今回の手法が特許の資産的な評価についての指標として有効であることが示唆された。

4. おわりに

今回課題とした、一般情報に基づく知財戦略の仮説(図1)の検証を、特許情報分析により行うという点では、概ね目的を達成できたと考えている。ボールペンという商品等についての一般情報が比較的入手しやすい業界であったことは分析結果の検証の点で幸いであった。工業製品等のような業界においていかに情報を入手するかについては今後検討が必要であろう。

また、特許の資産価値を評価する手法については、パテントスコアを用いた手法を検討し、一定の妥当性を有することが確認できたと考えている。分析軸等による技術的な分析の他、特許価値評価としての活用を検討していきたい。

本研究は、平成24年度PAT-LIST研究会((株)レイテック主催)における活動成果をもとに行った。貴重な研究活動の機会およびPAT-LIST使用にあたって様々なご協力を頂きました(株)レイテック殿に感謝いたします。

5. 参考文献

- [1] すごい文房具デラックス, KK ベストセラーズ, 2012-10-19 発行, p. 34-45
- [2] 日本筆記具工業会
<http://www.jwima.org/>
- [3] 該当各社の有価証券報告書
- [4] 日経流通新聞, 2012-03-26
- [5] (株)レイテック,

- <http://www.raytec.co.jp/products/>
- [6] 産経ニュース, 開発ストーリー「油性なのになめらか ボールペンの常識 覆す「ジェットストリーム」», 2011-12-18,
<http://sankei.jp.msn.com/economy/news/111218/biz11121818010008-n1.htm>
- [7] PILOT LIBRARY, もっと知りたいフリクション,
<http://www.pilot.co.jp/library/009/>
- [8] (株)パテント・リザルト社,
<http://www.patentresult.co.jp/lp-biz.html>